



背景と目的

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントは、すべての人々の人権を尊重し、持続可能で平和な社会を実現するうえで不可欠である。そのために教育が果たすべき役割は極めて重要で、SDGs 目標4においても明確に謳われている。

しかしながら、いまだに多くの国や地域では女子・女性がより脆弱で周縁的な立場に取り残されている。サブサハラアフリカでは、初等教育から後期中等教育に至るまでいずれの教育段階でも女子の就学率はより低いものであるし、世界全体で成人非識字者の63%が女性である。さらに、昨今のコロナ感染症拡大をうけ、女子の就学率低下や児童婚は増加の一途とたどっている。こうした女子・女性に教育機会を保障し、教育の男女格差を解消し、女性のエンパワーメントを実現することは、教育上の課題であるにとどまらず、社会全体の責務である。

翻って、近年、世界的な規模でデジタル化が進むなかで、教育の分野においてもイノベーションを取り込むことで質の高い教育成果の実現を図ることが期待されている。2019年に大阪で開催されたG20サミットでは、質の高い初等・中等教育の提供、STEM(科学、技術、工学及び数学)教育へのアクセスの改善及びジェンダーに関する固定観念の排除に向けた意識向上を含め、女兒・女性教育及び訓練への支援継続にコミットすることが合意された。2019年7月には、G7教育大臣開発大臣合同会合で、教育セクター計画の中にジェンダー平等を中心に据える取組(Gender at the Center)が合意された。ジェンダー平等の推進を図るうえでも、遠隔教育をはじめとする教育のイノベーションは現状改善に向けた大きな可能性を有している。

こうした状況を踏まえ、今年度のJEF for SDGsでは、女子教育とイノベーションに焦点をあてる。女子・女性を取り巻く問題とCOVID-19の影響、STEM教育の強化やイノベーションを通じた教育への質向上の諸側面を広く議論することで、様々な要因からより広い意味で困難な立場にある人々に対する教育について考える機会を提供する。その現状と課題について政策や教育協力、実務など多様な視点で検討する。基調講演では、イノベーションが女子教育に与える影響をSDGsの観点に鑑みながら検証し、ディスカッションでは参加者との活発な意見交換を期待する。

プログラム

主題：女子教育とイノベーション

日時：2021年2月2日(火曜日) 17:00-19:45

形態：オンライン配信 (Zoom)

運営：文部科学省、外務省、広島大学、筑波大学

後援：国際協力機構 (JICA)

※日英通訳あり

16時30分～ : 受付開始

17時00分～17時10分 : 開会

文部科学省代表挨拶、外務省代表挨拶

17時10分～17時40分 : 基調講演1 カディ・ジョップ・ンボジ セネガル国民教育省 事務次官

17時40分～18時10分 : 基調講演2 黒田 玲子 中部大学先端研究センター特任教授/東京大学名誉教授

18時10分～18時20分 : 休憩

18時20分～19時10分 : パネルセッション

モデレーター：藤田 晃之 筑波大学 人間系教授・教育学専攻長

パネリスト

- 藤平 朋子 株式会社すららネット海外事業推進室 執行役員
- 藤田 晃之 筑波大学 人間系教授・教育学専攻長
- シャバナ・バシージ＝ラシーフ アフガニスタン指導者学院長兼共同創設者
- 中島 さち子 ジャズピアニスト/数学研究者/株式会社steAm 代表 (内閣府STEM Girls Ambassador)
- パウラ・ラスキン ユネスコ国際教育計画研究所 ラテンアメリカオフィス 主任研究員

19時10分～19時40分 : 質疑応答・ディスカッション

19時40分～19時45分 : 閉会挨拶